

新幹線活用プロジェクトメンバーに聞く！

— 私たちが考える、新幹線のあるまち。 —

武雄市新幹線活用プロジェクトは、新幹線を活かしたまちづくりを研究し、事業計画を立てて取り組みを行うために商業、農業、観光、交通、行政などの各分野の方々で構成されています。そのメンバーを代表して3名の方に今後のまちづくりについて伺いました。



交通事業者 山口 守さん

**佐賀県西部の交通体系が
大きく変わる**

私は武雄温泉駅から周辺地域へのアクセス向上という観点から意見を出しました。リレー方式の乗り換え駅となることで有田、波佐見、鹿島など周辺地域への観光客が降りる機会が増えることから、そのエリアに向けたアクセスが必要になります。また近隣での観光を終えて帰るお客様に向けたバスの需要も高まるでしょう。リレー方式となり武雄温泉駅で乗り換えるお客様に武雄を印象付けるチャンスなので、駅構内に温泉情緒を感じられる仕掛けづくりをしたり、武雄ならではの土産物を用意するなど武雄らしさをうまくアピールしていくことが重要ですね。

当社では利便性の向上を目指し、3月から全国相互利用交通系ICカードを導入しました。それぞれの分野で今から出来ることに取り組んでいくことが大事だと感じています。

**武雄を愛する思いを
皆で表現していきたい**

私は旅館業を営んでいるので、主に観光の側面からまちづくりを考えてきました。新幹線開通を控えたまちづくりと言えば、施設やサービスの整備を優先しがちですが、私が一番大事だと思うのは市民の武雄愛です。武雄は早くからSNSに目をつけ、情報発信に取り組んできており、その習慣が市民にも根付いている珍しい土地だと思います。その特性を生かして武雄の良いところを更に積極的に発信していくことが大事です。外の人から見ると、住民の武雄愛溢れる情報発信は魅力的で、武雄へ来たくなる動機になるでしょう。

明治時代の鉄道開通など交通網の発展とともに歩んできた武雄が、新幹線開通をきっかけにまた新たな出会いの場となり更に発展するためにも、市民一人ひとりが武雄を愛する気持ちを表現していくことが最も大事ではないかと感じています。



旅館組合 江口 敬子さん

**皆が心地よく過ごせる
まちにしたい**

私は飲食店を経営する身として、商業面でいかに武雄を発展させるかを重点的に考えてきました。その中で最も課題と考えているのは労働力不足の問題です。新幹線開通に向けて駅周辺の賑わいを創出し、存続するためにも労働力が必要です。例えばですが、大学や専門学校誘致、海外留学生を受け入れる教育機関の創設など、若い労働力を確保する方法を市には模索して欲しいです。

労働力を確保した上で、高架下に飲食店や雑貨店などが立ち並ぶモールを作りたいですね。理想は駅、楼門、武雄市図書館、それぞれを結んだルートをメインストリートとして、飽きらずに散策できるような仕組みが出来たらいいですね。

決して観光客だけが楽しめるまちではなく、市民も心地よく過ごせるまちを目指したいですね。



川端通り商店会 平井 慎一郎さん